

定例教育委員会会議録

(令和3年11月8日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和3年11月8日(月)

9時30分～

場 所 岡谷市役所2階 202会議室

署名委員 草間職務代理人、太田教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 学校教育の現状について (教育総務課)
 - ① コロナ禍における学校行事等の工夫【資料 No.1】
 - ② 岡谷スタンダードカリキュラムの取り組みについて【資料 No.2】
 - ③ いじめ・不登校の状況について【資料 No.3】
2. 令和3年度子ども・若者育成支援強調月間の啓発番組について【資料 No.4】 (教育総務課)

○ 報 告

1. 岡谷市議会9月定例会一般質問要旨について【資料 No.5】 (各課)
2. イルフプラザ出張所の開設に向けて (生涯学習課)
3. 10月1日付異動職員の紹介について

○ そ の 他

- ・ 行事等について (各課)
- ・ その他

※定例教育委員会終了後、教育長室にて教育委員協議会を開催します。

【次回開催予定】12月10日(金)9時30分～ 岡谷市役所6階 605会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理人 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育総務課長 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、教育総務課統括主幹 増沢 洋子
教育企画主幹 伊藤 清和、教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 新村 尚志

<会議録>

○開 会

岩本教育長：

それでは、ただ今より、定例教育委員会をはじめます。

本日の署名委員は草間職務代理者と太田委員にお願いしたいと思います。

○教育長報告

岩本教育長：

11月は霜月といいます。朝晩の空気の冷たさを感じる季節となりましたが、同時に本格的な秋を迎えております。

実りの秋、文化の秋、スポーツの秋、食欲の秋、色々な秋を楽しむことができる季節ではないかと思えます。

そうした中、新型コロナに関しては、東京などの都市部も県内も感染者が大きく減少しております。

この理由については、国内でワクチン接種が進んだことや、日本人のマスク着用率が海外諸国より高いこと、或いはウイルス自体が弱体化したのではないかという説もありますが、諏訪地域内でも感染が確認されない日が続いております。

県外への往来も徐々に増え、土日や祝日には、県外ナンバーの車も多く見かけるようになりましたが、一方で北信地域では小中学生を含む感染が最近確認されたケースもあります。

冬場に向け、第6波の心配もあり、以前の日常に戻ったとは言えませんが、長らく不安が続いた日々から少し心を開放して、コロナと向き合いながら、秋を楽しんでいただきたいと思います。

さて、本日も何点か報告させていただきます。

●学校の行事等及びトイレの洋式化工事について

1点目は、小中学校の音楽会について、10月に県内の感染レベルが1に下がり、各校で予定した音楽会が無事に開催され、何校か様子を見させていただきました。

感染対策のため、マスクをしたままではありましたが、子どもたちのしっかりとした歌声を聴くことができました。

2点目は、10月23日（土曜日）に岡谷蚕糸博物館で開催されたオープンエアマーケットについて、当日は私も市民農園の関係者として参加させていただきましたが、今年は神明小の6年生が総合的な学習の時間で取り組んだ繭のキーホルダーなどの販売に参加していました。

このクラスでは、昨年度から岡谷スタンダードカリキュラムの実践として、シルク岡谷につながる繭について学んでおり、「お蚕様をたくさんの人に知ってもらいたい」という願いで参加したとのこと。

この学習活動は品物を作って、物を売るというキャリア教育の要素も含んでおります。お客さんに元気に声をかける子どもたちの姿に頼もしさを感じたところであります。

岩本教育長：

なお、この2点については、この後の議題の中で全体の取り組み状況などを報告する予定でありますので、皆さんからの意見などもいただきたいと思います。

3点目は、学校の施設整備に関して、本年度に実施しました長地小学校のトイレ洋式化工事がここで竣工しました。

工事自体は夏休みを中心に施工し、完成したところから順次利用しており、既に児童の皆さんには、新しいトイレを使っていると思います。

昨年度の川岸小に続いて2校目となりましたが、改修が必要な学校はまだありますので、残る学校についても計画的に整備できるよう努めていきたいと考えております。

●各公共施設のイベントについて

続きまして、生涯学習課からの報告になります。

「芸術の秋」と言われるこの季節、カルチャーセンターや各公民館において、絵画・写真・書道・華道など日々の活動の成果を発表する文化祭が開催されております。

カルチャーセンターでは、10月30日（土曜日）から31日（日曜日）まで、「岡谷市文化祭作品展」を開催いたしました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。カルチャーセンターで活動する学習グループなどから262点の出品があり、活動の成果を多くの方にご覧いただくことができました。

これを機会に、生涯学習への意欲をさらに高めていただくとともに、カルチャーセンターや各公民館を多くの方々にご利用いただけるきっかけとなることを期待しているところであります。

11月6日（土曜日）には、カノラホールにおいて、ダンスや日本舞踊、ハワイアン音楽などの発表を行う「市民伝統音楽芸能祭」が開催されました。

岡谷演劇祭につきましては、シルキーチャンネルで放映する予定となっております。

市立岡谷図書館では、10月31日（日曜日）に「としょかん子ども読書まつり」を開催しました。人形劇や紙芝居、手遊びなど、様々な趣向を凝らした出し物があり、100人を超える多くの親子連れが楽しそうに参加していました。

子どもたちが本とふれあい、本を好きになることを願っているところであります。

また、岡谷美術考古館では、11月3日（水曜日）に移転開館後9年目を迎えたことから、開館記念日として館内を無料開放するとともに、「文化の日」に伴うイベントとして、「旧住宅・旧渡辺家住宅」も無料公開いたしました。3館あわせて延べ131名の方にご来館いただきました。

あわせてブランド推進室と協力し、旧山一林組製糸事務所100周年記念事業の一環として、旧山一林組製糸事務所を一般開放し、館内の案内及

岩本教育長： び製糸全盛期時代の写真と現在の風景を比較できるパネル展を行いました
たが、こちらは大勢の皆様にお越しいただいております。

今後であります、11月11日（木曜日）から14日（日曜日）まで、
カルチャーセンターにおいて岡谷市美術会による「岡谷展」が、11月2
0日（土曜日）には、カノラホールにおいて市民朗吟祭が開催されるほか、
岡谷美術考古館では、11月18日から高橋靖夫回顧展が始まるなど、催
しが目白押しとなっております。

「芸術」というと、敷居が高く感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、
この秋、身近なところで芸術や文化に触れていただき、新しい発見や
感動、新たな趣味や生きがいなどを見つけていただければと思っております。

●やまびこ国際スケートセンター屋外リンクの営業開始について

スポーツ振興課から、やまびこ国際スケートセンター屋外リンクの営業
開始について報告させていただきます。

日に日に寒さも増し、いよいよスケートシーズンの到来であります、
やまびこ国際スケートセンターの今シーズンの営業は、11月23日
（火曜日）から来年の2月15日（火曜日）までとなります。

現在、施設管理をお願いしている「(株)やまびこスケートの森」において
は、9日から製氷作業に取り掛かり、連夜散水を重ねながら、安全で滑り
やすいリンクづくりに努めていただきます。

当スケートセンターは、岡谷市のスケート文化を将来に引き継ぐ施設と
して、平成6年にオープンし、以来、市民の皆さんが「集い」「楽しみ」
「競い合う」施設として、今年で28年目を迎えております。

例年、オープンイベントを開催しているところでありますが、新型コロナ
ウイルス感染症拡大防止のため、イベントの開催は見送りとなりました
が、当日は滑走料を無料としておりますので、多くの皆様にご来場いた
だき、初滑りを楽しんでいただければと思っております。

昨年度のスケートセンターの入場者数は、新型コロナウイルス感染症の
影響もあり、約1万8千人で前年度に比べ約6千3百人、26%の減であ
りました。

今シーズンにおいては、昨年度を上回る多くの皆様に滑り込んでいただ
くとともに、引き続き感染対策を十分に行うなかで、スケート人口の底辺
拡大と競技力向上に取り組んでまいりたいと考えております。

また、来年の2月には、北京冬季オリンピックの開催が予定されており、
ウインタースポーツの盛り上がりを大いに期待しているところでありま
す。

私からは以上であります。

ただいまの報告について、ご質問等がありますでしょうか。

岩本教育長

それでは、本日の議題に入ります。

議題の1、「学校教育の現状について」を議題として、学校教育の取り組みについて全部で3点ございますので、それぞれ事務局より説明をお願いいたします。

○議 題

1. 学校教育の現状について（教育総務課）

①コロナ禍における学校行事等の工夫

＜資料1に基づき、事務局より説明＞

②岡谷スタンダードカリキュラムの取り組みについて

＜資料2に基づき、事務局より説明＞

③いじめ・不登校の状況について

＜資料3に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長：

ありがとうございました。それでは、①コロナ禍における学校行事等の工夫について、皆さんからご意見があればお伺いしたいと思います。

太田教育委員：

修学旅行について、これから実施する小学校が2校あるということで、昨年度は学校の先生方にもいろいろとお聞きして、初めて行き先を県内にしたことによって逆に修学旅行としての本来の意味合いが得られる結果になったという話を伺って、「なるほど」と思った記憶があります。

本年度は全校が県内というお話になりましたが、そういう形で実施されて、良かった点、良い結果につながったようなご報告がありますでしょうか。

事務局（濱）：

直接、報告があったものではないですが、昨年度から引き続き、県内での修学旅行となり、長野県の良さを見つめ直すきっかけになったという話や、岡谷スタンダードカリキュラムでもお話させていただきましたが、自分が住んでいる地元を見つめ直すきっかけになったということがあると思います。

様々な工夫をしていただいて、岡谷東部中学校については、日帰りで実施したという報告がありましたが、11月に入ってから、軽井沢の方に総合的な学習の時間の一環として、SDGsに関わる学習を日帰りで行ったという話を聞いております。京都・奈良に行くという一般的な修学旅行の学習ではなく、様々な方面に学びを広げるきっかけになっていると私は感じております。

太田教育委員：

ありがとうございます。昨年、私が伺った2人の校長先生のお話だと、今までのように遠くへ行くこともメリットがあり、良いことだと思いますが、修学旅行について、こういう形の中で実施することで改めて得られたものもあるというお話がありましたので、来年度がどうなるか、わかり

太田教育委員： ませんが、ぜひこの2年間の経験を今後のより良い修学旅行の実施につなげていただければと願っております。

岩本教育長： 補足しますと、県外へ行くとなるとバスに乗っている時間が非常に長かったわけですが、県内ということでその分、体験型の学習や仲間との触れ合いなど、一つ一つのことにじっくり関わることができたので、それが子どもたちにとってはとても好評だったというお話をお聞きしました。

県外へ行く良さもあるでしょうし、県内の良さというものもあると思いますが、学校も両方を精査しながら、今後どうしたらいいかを考える良いきっかけができたと思います。ほかにご質問ありますか。

藤森教育委員： 今回の修学旅行に関連することで、県内ということで教育長先生からも大きなメリットがあったというお話をいただきましたが、コロナ禍という状況になって今まで中学校であれば、大体、京都・奈良と決まった場所を訪れて、その中で何を学習するかだったと思いますが、今回は小学校も中学校も県内と言っていますが、本当に多岐に渡っているいろんな場所に行かれており、私も行ってみたいと思いました。

例えば、同じ学校でも昨年に修学旅行で県内に行かれた場所と今年では行く方面が変わっており、それ自体は良いと思います。同じ県内でも長野県はすごく広いので、各校が訪問地を選定するにあたって、主にどんなことに重きを置いて考えているのか。学校ごとに事情も違い、行き先も違っていると思いますが、いろんなところに行かれているので、校長会などで情報共有をされていたのかも教えてください。

事務局（両角）： 第一に、感染状況です。やはり、行き先の感染状況がどうかということを非常に心配して、計画を立てています。よって、川岸小学校と神明小学校は当初9月でしたが、8月から9月ぎりぎりまで状況を見た中で、延期しようという判断がされました。

資料にあげてありますが、実はこの行程の中には、例えば、北信方面で上越水族館を予定として組んでいた学校も多かったんですね。ただ、県外まで出てしまうということは情勢的に厳しいという判断で、県内で完結する日程になったというところがあります。

昨年度もやはり同じように、その時その時の感染状況を見て、南信地域が比較的感染がなかったということで、南信地域を選んだ学校が多かったと思います。今回は逆に北信も加わって、その地域その地域で、できる素材を取り入れてやっておりますので、自然学習や社会見学も含めて、いろんな要素について、事前に学んでから、現地に行って楽しんでおりました。

岩本教育長： 校長会でも情報共有しています。そして、子どもたちの想いや実情を勘案して、子どもたちの声を反映させながら、先生たちと一からのプランニングだったので、本当に先生たち苦勞して情報収集する中で、計画を立てておりました。その熱意が子どもたちに響いたのではないかと思います。

藤森教育委員： ありがとうございました。

事務局（両角）： 一点、中学校の中には、クラスごとで行き先自体を生徒が自分たちで選べるようにして、自主性を持たせ、主体的に考えるという取り組みを行った学校もありましたので、まさに修学旅行の意味というものを再認識することが出来、非常によかったと思っています。

藤森教育委員： 新しい修学旅行のスタイルというか、コロナ禍というものが収まった後、何かその先に生かせるようにぜひ今後も考えていただきたいと思います。本当に先生方のご苦勞が伝わってくる内容だと思いました。

学校生活の中で、修学旅行が一番思い出に残るトップクラスの行事だと思いますので、子どもたちにとって、一生の思い出になる形をさらに考えていただきたいと思います。

高木教育委員： 各学校の先生方はご苦勞されて、またいろいろと工夫されて、このコロナ禍を乗り切っていただき、本当にありがたく思っています。

今、非常に感染状況が落ち着いてきた中で、今までと同じように適切な距離を保ち、給食も黙食をしていると思うのですが、各学校の教室の様子も見させていただいて、子どもたちがきちんとその決まりを守って、学校生活を送っている様子に胸が痛くなりましたが、子どもたちが本来の姿で伸び伸び生活できるようにこの状況を見ながらどこでどのように規制を解除していくかというのはとても難しいことだと思います。

今、社会でいろんな規制が解除されていく中で、教育委員会としても、子どもたちの本来の生活ができるようにどこかで元に戻していけるような方向で検討していく必要があると思います。

小平教育委員： 今お聞きしました自主性、自主的に選ぶ方法を取り入れたということで、大変面白いと感じました。先生方も下見されたりして、大変苦勞されたという話をお聞きしています。資料を拝見しまして、コロナ禍でいろいろと工夫され、きめ細やかに対応していただいております、大変ありがたいことだと思いました。

やはり、地元である信州の良さを再認識という内容がすごく盛りだくさんだったと感じました。私も最近になって、いかに自分の地元を知らなかったか、信州エリアで知らないところがいっぱいあると感じました。

県歌の中に出てくる重要な場所にも私はまだ行けていない場所が結構ありますし、地形的にも面白い場所、大きな古墳があったり、この資料の行先リストを拝見すると先生方が上手に選んでいらっしゃると思いました。そういう場所は歴史的に見ても、歴史の中心的な場所でもあるので、学びに繋がると感じました。

最近、自分も絵の展示会で伊那市のかんてんぱぱに行く機会がありました。そこの工場見学に1日5組ぐらい、小中学校が工場見学に来ていました。そのような形で地元の良さを知っていくことで、自分のふるさとに誇りを持って、将来また地元に戻ってきたいなという気持ちに繋がると良いと思います。コロナ禍で大変でしたが、良い機会になったと思います。

草間職務代理者： 私もこの2年間、子どもたちの修学旅行を見ていて、これからは見学型から体験型に変わっていくのではないかということを感じました。これからコロナが落ち着いて、関東や関西へまた修学旅行に行くことになった場合でも、名所をたくさん見て回るのではなく、体験に重点を置いた修学旅行になっていくと思いました。

音楽会も小学校と中学校を1校ずつ出席させていただいて、密を避けるため、練習が少ない中で、一年生は例年の半分ぐらいしか練習できなかったのではないかと思います。しっかりと感染対策を守りながら、自分の力を出していました。マスクで声も出しにくい中で、一生懸命歌っている姿に感銘を受けました。

これでコロナが収まって、通常の音楽会が早くできるようになれば良いなと思いました。

岩本教育長： ありがとうございます。コロナのことをマイナスに受け止めるのではなく、逆にプラスに受け止めて、子どもたちも先生方も頑張っているのだと私自身も評価しております。

また、行事についても、子どもたちにとって、節目、節目の非常に大事な行事ですので、新しい学校行事のあり方を考えるいい機会になり、まさにマイナスがプラスに転じる典型的な事例であったと思っています。

それでは続いて、岡谷スタンダードカリキュラムについて、濱先生からご説明いただきましたが、何かご意見ありましたら、お願いいたします。

草間職務代理者： 岡谷スタンダードカリキュラムを平成28年からやっており、総合学習で蚕について、4年生、5年生、6年生と勉強をしていくのですが、プログラミング授業については、4年生が全員1回だけやって、5年生、6年生に繋がらないわけですね。

この資料を見るとプログラミングに興味を持っている方がすごく多いということで、全校というのではなく、例えば、興味のある子どもたち、プログラミングを続けてぜひ勉強していきたいという子どもたちが続けられるような仕組みについて、岡谷の特色であるものづくりということもあり、5年生、6年生まで何らかの形で継承できないかと思うのですが、どうでしょうか。

事務局（濱）： 以前は4年生だけでなく、5年生、6年生にも授業を展開していたと聞いていますが、4年生で全員が一度は必ず体験するというので、現在の形になったと聞いております。子どもたちの話を聞いてみると学校にプログラミングのクラブがあって、入ってみたいという子どもがいたり、体験的なプログラミング教室のようなものを地域でやっているの、そのような場所でやってみたいという子どももいますので、一つのきっかけづくりにはなっていると思っています。

それから各学校にはプログラミングの教材キットがすでに導入されており、それらを活用する学習のきっかけになっていると思っています。

事務局（瀨）：これから発展させていくということについて、今ご意見いただきましたので、さらに研究し、より発展的に子どもたちが学べる機会の提供について考えていきたいと思っています。

草間職務代理者：1人1台端末という環境が整って、そのようなキットがあるとするなら、指導する側の問題はあると思いますが、やりたい子どもが部活やクラブ活動みたいな形でできれば良いと思いますね。

事務局（瀨）：私もクラブ活動という形が良いと思います。今年、上の原小学校の高学年の5年生か、6年生の子から学校によるプログラミングの教材について、学校に来る人たちにとって役に立つために使いたいという問い合わせがありました。

具体的には階段にセンサーを設置したいというものでした。急な階段で危ないので、そこに近づいたら、注意を呼び掛けるために光や音で知らせたいということで、ぜひ活用してくださいと伝えました。4年生で学んだことが5年生、6年生になって、このように使えば、こんなことに役立つといった総合的な学習などに発展している例もありますので、私もその様子をしっかりと掴んで、どのように発展させていくか、勉強していきたいと思っています。

草間職務代理者：よろしくお願いします。

小平教育委員：今のお話は大変素晴らしいと思いました。プログラミングやITについて、やはり大事な事はその技術が今の生活にどのように生かされるかを考えることだと思います。

今回の事例は実践的で子どもたちがその技術を使って、今の生活でどのようなことを生み出せるか、考えるものだったので素晴らしいと思いました。

岡谷スタンダードカリキュラムについて、ポイントをまとめてくださり、大変貴重な資料だと思いますので、先生同士で共有することがとても大事だと思います。

岡谷の農業や発酵食品の味噌づくりなど、面白い内容ばかりで、私も知らなかったのですが、岡谷のシルクの発展があって、味噌づくりという流れが出来たんですね。

また、菊栽培の花農家さんが岡谷には多くて、どうして知られていないのかずっと考えていましたが、生産された花のほとんどが都会に出荷されて外に出てしまっているということをお聞きしました。

いろんな側面から岡谷について、先生方が満遍なくカリキュラムを作ってくださっていると感じました。

このほかに、大きなテーマではシルク岡谷があり、シルクの製品作りになると歴史が関係してきて、様々なジャンル分けができると思います。

ものづくりについては、今の時代、シルクで何かを作っているわけではありませんが、どんなことができるかなということを考えました。私も自分で取り組んでみて、いろいろわかってきたことがあって、今、デジタ

小平教育委員： ルプリンタを使って布に印刷ができるんです。宮坂製糸所がシルクにアートを印刷することをやっていたので、私もシルクのスカーフを作ってみました。プリントはできたのですが、縫製のところでつまずいてしまいました。縫製できる人がいなかったんですね。本当に細かい糸で縫製が出来るところを何件かあたってみました、皆さん出来なかったんです。そういう技術がかつてあったはずですが、今の日本で出来る人がいなくなってしまったんですね。

次に制作したとしても、販売するにはどうすればいいのかということも出てきます。店舗で販売するのか、オンラインで販売するのか、子どもたちがそういうことを体験していく中で、自分が興味を持てる分野があると思うんですよね。社会に出てから、ものづくり一つをとっても、製造から販売までいろんな役割があって、じゃあ、自分がどの部分を担うのか、自分で考える良いきっかけになると思います。

さきほど、教育長先生からオープンエアマーケットで繭のアクセサリーを販売したクラスがあったというお話がありました。そういう経験も教育の面で役に立つほか、岡谷の産業を勉強しつつ、自分の将来について、考えられるきっかけになると思います。

ものづくりについて、工業系以外のことで、今はものづくりと一言で言っても、コンテンツ作りのような映像やお楽しみプログラムも一つのものづくりと考えられる時代になってきていますので、そういった分野でも岡谷には素材がたくさんあるので、いろいろと取り組めるのではないかと、これからに期待したいと思います。

太田教育委員： 平成28年度に岡谷スタンダードカリキュラムがスタートした段階で、他の自治体と比べても本当に自慢できるすごい内容なものが出来たなと思いました。ここまで地道に育てていただいたことを非常に嬉しく思います。

今日の資料の中で各学校の実施内容を拝見し、どのテーマも非常に多様で、非常に内容が充実した授業として子どもたちが取り組んでおり、とても素晴らしいと思いました。

初期の段階ですでに非常に充実したカリキュラムだったので、それを取り入れていく先生方がどのようなテーマを選定するのか、どのような形を最終的な着地点として、子どもたちと一緒に取り組んでいくのか、当初に非常に悩まれていたというお話をお聞きしました。もちろん、先生同士や学校間でいろんな形でお互いに学び合いながら、ここまで育てて、作ってこられたのだと思いますが、現在の先生方の認識や取り組みの進捗について、どのように実感しているか、教えてください。

事務局（濱）： 岡谷市の中堅教職員向けの研修会や悉皆研修会で、熟議の時間が設けられており、そこで岡谷スタンダードカリキュラムの実践について、テーマを掲げ、様々な情報交換がされています。中堅教職員の研修ですと6月に、それから悉皆研修を7月ということになりますが、前年度の実践内容に

事務局（瀨）： ついて、熟議していただいたり、その年度の春の段階で今取り組んでいることを話し合ったりする中で、先生方がどこまで取り組んでいるのか、今悩んでいることは何かということを経験し、これからの展開について話し合う良い機会になっております。そういった機会を通じて、先生方が学び合いながら、さらに内容を充実させるきっかけになっていると思います。

太田教育委員： もちろん、一人一人の先生のスキルや捉え方は違うと思いますが、私も先生同士で学ぶ機会を作ってここまで進んできたのだろうと強く感じておりましたので、この岡谷スタンダードカリキュラムが岡谷市の教育の財産になっていくのではないかと、むしろ、なりつつあると思いますので、ぜひ今後もそのような形でより良いものになっていくようにしていただきたいと思います。

高木教育委員： プログラミング授業について、子どもの感想の中にワクワクしたというのがあり、ワクワクした授業をできることが本当に素晴らしいと思います。瀨先生が内容を見てくださり、岡谷工業高校や他の中学校の先生も来てくださり、チームティーチングをしていただいて、そういう人的な支援が保障されているので、先生方も安心して授業ができるのだと思います。このようなことはなかなか出来ることではなく、自分が全ての授業をしなければならいとなると先生方にとってはすごく負担なことだと思いますが、そのような人的な支援があることで、積極的に取り組んでいくことが出来るので、この制度は本当に素晴らしいと思いました。

この岡谷スタンダードカリキュラムについて、各学校の取り組みを見ると、地域に出ていくことでその地域のいろんな方と繋がり、地域の協力で授業が展開されており、まさに「ひと、もの、こと、こころ」の人について学び、その繋がりが地道に出来上がっていていると感じています。

一人一人の先生だけでなく、各学年や学校全体で先生方に協力してもらわないと出来ないことなので、そういう点でも人の輪が広がっており、この岡谷スタンダードカリキュラムはいろんな意味で、人と人をつなげていくカリキュラムになっていると改めて実感しております。これからも活用してもらえたら嬉しいと思います。

藤森教育委員： プログラミング授業のアンケートを拝見させていただき、私もものづくりの仕事に携わっていますので、このアンケート結果を見たら、岡谷の工業系の社長さんたちは泣いて喜ぶのではないかと感動しました。

仕事に絡んだ話で恐縮ですが、工業関係は岡谷市には工業振興課という部署があって、現在の会場のラオカヤの関係もあり、来年のものづくりフェアの開催をどうしようかという取り組みが始まっていて、スタイルをかなり変えてやっていきたいと思いますということで、市内事業所の社長さん達と一緒に進めています。

藤森教育委員： こういったアンケートはぜひ情報共有していただいて、地域で一緒になってやっていくという意味で、社長の皆さんはすごく考えてくださる方が多いので、情報提供していただければ、自分ができることで、例えば「じゃあ、この工場を見学できるよ。」といった話に発展することもあると思います。

本当にいろいろなことをカリキュラムとして取り組んでいただいて、当然、学校教育のカリキュラムという形でスタートしていて、子どもたちに岡谷市にちなんだテーマで学習してもらい、段々とリソースが積み重なっていったと思います。これを発展的に考えていった場合に、例えば、生涯学習みたいな分野で活用ができるのではないかと考えています。

子どもたちだけではなく、大人も一緒になって岡谷市の良いところを学んでいく機会として、将来的に発展させていけば、もっといろいろとまち全体が面白くなってくると感じました。

岩本教育長： ありがとうございます。大変貴重なご意見等をいただき、勉強になりました。いずれにしても、平成28年から始まった岡谷スタンダードカリキュラムについては、それぞれの学校が一日一日積み上げてきたのだと思います。先生方、本当に苦勞していただく中で、この岡谷スタンダードカリキュラムを他人事ではなく、自分事として、やっていただいているところが大変にありがたいと思います。そのおかげで子どもたちに岡谷で生まれ育ったという帰属意識が芽生え、あと10年、20年経過したときに岡谷回帰の心に繋がるのではないかと本当に楽しみにしています。

これは大きな財産ですので、さらにみんなで共有してより良いものにしていきたいと思います。また、この岡谷スタンダードカリキュラムは委員の皆さんも実際に見ていただく中で、率直なご意見を頂戴できれば大変ありがたいと思っています。

続いて、いじめ・不登校について、ご質問、ご意見ございましたらお願いします。

太田教育委員： 先ほど結果をご報告いただいて、特に不登校については全国的にも県内でも、今回のコロナ禍という状況を通じて、共通した原因があると思うので、何とも言いにくいところがありますが、逆にここでリモートによる端末を利用して、いろんなことができるようになった側面も出てきて、不登校のお子さんが端末を活用して少し学校との関わりが持てるようになり、或いは学校に出て来られるようになったり、少しでもいい方向に進んだ事例というものはありますか。

事務局（増沢）： はい。一人一台端末が整備されておりますが、端末の家庭への持ち帰りについては、これから本格していくところかと思います。ご自宅のWi-Fi環境で、スマホやタブレットを通じて、学校のお友達の様子を見ることができたという報告がありました。

事務局（増沢）： 現時点では、そういった事例は多くはないのですが、今後は例えば学校に行かなくても相談ができる先生がいて、そこと繋がることのできるような取り組みについて、考えていきたいと思います。

太田教育委員： ありがとうございます。先ほどのご報告でもありましたが、特に不登校についてはそれぞれのお子さん、或いはご家庭の事情というのが非常に多様で複雑だと思いますので、一つ一つ対応していくということになると思いますので、ぜひそのように活用していただきながら、少しでも繋がっているという状態を作っていただきたいと思います。

草間職務代理者： よろしいですか。この2年間はコロナ禍ということで、今までとはどうしても違う結果が出ると思うんです。それでコロナが落ち着いた時に果たして、元に戻るのか、不登校の小学生が今多いということですが、落ち着いたら普通の学校生活に戻る子が多くなるのか、その辺はどのようにお考えですか。

事務局（両角）： なかなか難しいですね。感覚で言うてはいけませんが、明確な収束というのはなかなか打ち出せないと思います。これから先も。共存していかなければいけない、ウィズコロナでいかなければいけない中での2年間でした。今、いろんな不安、家庭生活の不安や学校生活の不安から、学校へ足が向かない子どもたちも多くなっているのが全国の傾向だというのがありますので、この落ち着いている状況がしばらく続けば、そろそろ学校に行ってみようかなという子どもも多くなってくると思いますので、一つでも多く関わりを持ちながら、こうした状況から不登校の数字を少なくできるよう市教委として、取り組んでいきたいと思います。

草間職務代理者： そうですね。今までが、異常だったと思うんです。突然学校が休みになってしまって。だから、早く正常に戻ってほしいと思います。子どもたちが落ち着いて学校生活を送れるようになることを願っております。

高木教育委員： いじめの発見のきっかけは、その半数が学校の先生や担当の先生への相談であり、やはり学校の先生はそういう意味で、子どもたちのことをじっくり見ていかなければいけない大事な存在だと思うのですが、今はマスクをしていて、本当であれば子ども達の表情から読み取って、今日はちょっとお腹が痛いのかな、今日は寝不足なのかなということがなかなか読み取りにくい状況だと思います。先生方にはご苦労いただいており、大変だとは思いますが、ぜひ子どもたちの一人一人の表情をじっくり読み取っていただきたいと思います。

岩本教育長： はい、ありがとうございます。いじめや不登校は本当に大きな課題でございますので、総力を挙げて、学校現場といろんな専門機関との連携をこれまで以上に、密にしながら取り組んでいく必要があると思っております。それから、実は不登校の目というのはもう低学年から出てきます。小学校の1～2年生の時から学校を休みがちになるという子どもが少し増えていると思います。

岩本教育長： よく言われる小一プロブレム、小学校に入学した途端に今までと違う環境で学校に居づらくなる子どもが増えていて、これも事実でありますので、これまで以上に幼保小の連携として、絹結プログラムというのが岡谷市にはあります。

保育園、幼稚園と小学校がそれぞれ今、連携を実践しているわけですが、そういったものをこれからもしっかり充実させることで、保育園からスムーズに、或いは幼稚園からスムーズに小学校に入って、そして楽しい学校生活を送ることが出来ると思います。

また、中一ギャップもそうですね。小学校と中学校の繋がりがとっても大事で小学校から安心して中学校に行って学ぶという幼保小中の一貫した学びの連携がやはり不登校を減らすためのとても大きな役割になってくると考えています。

そういったことにも力を入れながら、最後は1人1人にどれだけ温かな想いを入れて、一緒になって考えていくか、そこに尽きるわけですが、いろいろな対策をしっかり講じる中で、1人でも2人でも不登校やいじめが減るようにしていきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、いろいろな面から貴重な意見をいただきましたが、以上で議題1を終了とさせていただきます。

続きまして、議題2に移りたいと思います。

「令和3年度子ども・若者育成支援強調月間の啓発番組について」を議題とします。事務局から説明をしていただきます。

2. 令和3年度子ども・若者育成支援強調月間の啓発番組について（生涯学習課）

＜資料4に基づき、事務局より説明＞

＜街頭啓発活動の代替となる啓発番組を視聴＞

岩本教育長： ただいま、番組をご覧いただいたわけですが、番組に関する質問でも結構ですし、強調月間そのものについて、ご質問、感想ございましたら、よろしくをお願いします。

小平教育委員： 多くの方にご参加していただき、高校生の方々も楽しく参加されており、とてもいい感じに出来上がったと思います。

やはり、文字だけとは違って、自分や誰か知っている人が出演している場合には注目度が高まり、市民の皆さんに興味を持ってもらいやすいので、とても効果的だと感じました。

草間職務代理者： この番組はどこで配信する目的で作られたわけですか。

事務局（伊藤）： シルキーチャンネルで発信していますので、市民の皆さんに見ていただきたいという思いで作っております。

草間職務代理者： せっかく番組を作っていただいたので、公共施設がいろいろありますよね。市役所も1階にテレビがあります。こどものくにもあります。あらゆる公共施設で放映していただいて、例えば、高校でもお昼に流していただくなど。大変良いコンテンツなので、1人でも多くの市民の皆様知っていただくことが本当に大事だと思います。

街頭で啓発用ティッシュを配る場合は一人しか対象にならないわけですが、こういうコンテンツでしたら、市民の皆さんに深く浸透できると思いますので、せっかく良い番組を作ったので、ぜひ多くの市民を対象に周知をお願いしたいと思います。

事務局（伊藤）： はい。わかりました。もう少し期間がありますので、検討したいと思います。

高木教育委員： 支援してもらおう若者の方が直接番組に出て、発言してくれていることはとても良いと思います。すごく番組もフレッシュな力が溢れてきて、これからは何かこのようなものを作る場合にはぜひ若者に参加してもらって、若い人の力を借りるのが良いと思いました。

藤森教育委員： 初めて拝見させていただきました。委員の皆さんがおっしゃるようにいろんな方が出てきて、すごく良いと思いました。願わくば、広報全般に言えることかもしれませんが、もう少しテロップや字幕だったり、もっと言えば、手話通訳みたい方がいるとなお良かったかなと思いました。

太田教育委員： 私も初めて拝見させていただきました。子ども・若者育成支援強調月間ということで、その取り組みを紹介した動画だと思いますが、先ほど草間さんがおっしゃったようにいろんなところでもっと見ていただけるようにすることが大切だと思います。また、今井市長から子どもたちが地域の方々と触れあい、地域ぐるみで活動するという話に関連しますが、私は岡谷市内に何か支援したい、或いは何か関わりたいと漠然と思っている人が結構いらっしゃると思うんです。

見守り隊について、ここへ問い合わせてくれれば、一緒にできますよとか、こんなことをやっているの、ぜひ来てくださいなど、リーダーズクラブもそうだと思います。何か具体的にこういうところでこういう活動が一緒にできますという発信、具体的な募集までしても良いと思うのですが、そういう発信をしていただいても良いのかなと思います。

心の中だけで思っている人が結構いるのではないかという気がしたので、その辺を発掘する、引っ張り出してあげる内容のものを作って、発信すれば、具体的に行動するとこんなことが一緒にできますという動機付けになると思います。

岩本教育長： はい。様々な意見をいただきましてありがとうございます。正直言いまして、コロナ禍の中で初めて企画をしたことになります。

バージョンアップするのはいろいろな手があって、皆さん言われる通りですが、今回はここまで大変でした。でも、本当によくやっていただいて、まずこういうことを企画して出すということ自体がなかなか大変だった

岩本教育長： と思いますが、それをやり遂げていただいて、市民の皆さんにもかなり興味深く見ていただいたのではないかと思います。

バージョンアップしていくにはそれなりのものが必要になって参ります。本当にいろんなことを勘案しながら、こういう啓発の動画は見て、かなりインパクトがあると思います。それだけ、子どもを主役にしたような作品はやはり見ていただけるのではないかと思いますので、今後様々なことに対して、こういったものができればいいなと思います。

ただ、あまり期待をしすぎないようにだけお願いします。プロがやるようなものとなると担当の仕事内容を超えてしまいますので、できる範囲の中で皆さんに言われたようなことを勘案してやっていきたいと思っています。

来年はどうなるかわかりませんが、いずれにしてもこの青少年の健全育成については、大事な課題でありますので、教育委員会としても、みんなで考え、知恵を出し合ってやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。以上で本日の議題は終わりになります。

続いて、報告事項に入りたいと思います。

報告事項1ですが、岡谷市議会9月定例会一般質問要旨について、事務局より説明をお願いします

○報 告

1. 岡谷市議会9月定例会一般質問要旨について (各課)

＜資料5に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： ありがとうございました。何かご質問ございますか。よろしいでしょうか。続きまして、報告事項2に入ります。

イルフプラザ出張所の開設に向けて、事務局より説明をお願いします。

2. イルフプラザ出張所の開設に向けて (生涯学習課)

事務局(伊藤)： 口頭で報告させていただきます。イルフプラザ出張所の開設に向けてということですが、ご承知のとおり、駅前のララオカヤの一階にある岡谷駅前出張所の年内閉鎖に伴いまして、カルチャーセンター事務所横の現在コピー室として使用している場所に出張所の機能を移転し、来年1月10日から岡谷市役所イルフプラザ出張所を開設いたします。

施設の改修工事は明日11月9日から始まります。工事の内容は現在オープンスペースとなっている通路側に壁及びドアを設置するとともに、防犯対策としてカルチャーセンター執務室から出張所に行けるように執務室の壁の一部を撤去いたします。また、証明書の発行作業に必要な端末を設置するための電話配線等の工事を行うとともに、後ほど、出張所までの案内看板等を設置いたします。

出張所の業務については、市民生活課から派遣される会計年度任用職員が担ってまいります。窓口混雑時のフォローや収納金の管理等はカルチャーセンターの職員が携わることになることから、今後、職員研修を計画

事務局（伊藤）：し、行ってまいりたいと考えております。

開設に向け、スムーズに出張所の業務が遂行できるよう、職員一丸となって準備を進めてまいりたいと思っております。教育委員の皆様にはご理解のほどよろしくお願いいたします。報告は以上です。

岩本教育長：ただ今の説明について、何か質問や意見がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、報告事項3でございます。

10月1日付で職員の異動がございましたので、この場を借りて、紹介させていただきます。

3. 10月1日付異動職員の紹介

＜教育総務課 宮坂 裕さん、教育総務課 宮澤 絢子さん 自己紹介＞

岩本教育長：ありがとうございます。2人ともお世話になりますが、よろしくお願いいたします。報告事項については以上となります。

続いて、「その他」ということで、行事予定について、事務局よりお願いします。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

岩本教育長：事務局より説明がありましたが、何か、ご質問等ございますか。よろしいでしょうか。それでは以上となります。このほか、教育委員さんから何か報告事項があればお願いします。

それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

事務局（両角）：次回の定例教育委員会は、12月10日（金曜日）9時30分～岡谷市役所6階605会議室で予定していますので、よろしくお願いします。

岩本教育長：それでは、以上を持ちまして、本日の会議を終了とします。この後、教育長室で教育委員協議会を開催しますので、よろしくお願いいたします。お疲れ様でした。

11時25分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

令和 3年 12月 10日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

草間吉幸

署 名 委 員

太田博久

調 製 職 員

白上 淳